

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 黒畑 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

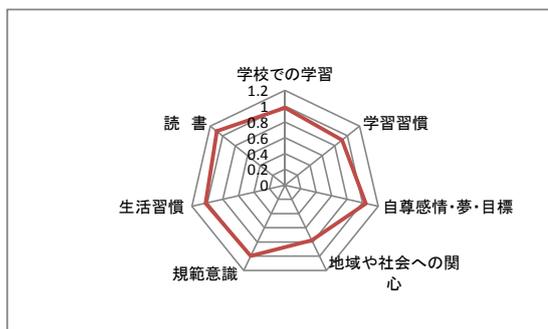
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っており、基礎的な言語知識の定着が見られた。 ・漢字を正しく書く問題に課題があり、既習の漢字を覚える必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読む問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題は正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均を上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」「物語文を読むこと」の問題の正答率が高かった。 ・構成の仕方や筆者の意図等に注目して、説明的な文章を読むことに課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える問題は正答率が低かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っており、基礎的・基本的な知識の定着が見られた。 ・資料を二次元表に分類整理する問題の無回答率が全体的に高く、図形に関する問題が苦手なことがはっきりした。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成できることの理解を求める問題は正答率が低かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率をやや上回っている。応用問題に対して、苦手意識を持たず、粘り強く取り組む姿勢が見られた。 ・示された数値を基に、比較や関連付け、解釈をしながきまりや求め方を記述することに課題がある。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	示された条件を基に、適切な式を立てる問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	考えを解釈し、示された数値を基準として平均の求め方を記述する問題は無回答率が高かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・読書好きの割合は全国を上回っている。 ・「携帯・スマホ電源10時OFF」や「規範意識事業」等の取組により、60分未満の割合がやや増加した。 ・将来の夢や希望をもっている児童は全国を上回っている。それぞれの夢を実現するために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けていくことが必要である。 ・家庭学習を行っている児童の割合が全国より下回っている。「家庭学習チャレンジハンドブック」等を活用して、家庭学習の定着を図る必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・授業開始5分を利用し、フラッシュカード等を用いて反復練習を行い、既習の漢字の定着を図る。
- ・黒畑タイムを活用し、図形に関する知識・技能の定着を図る。
- ・学期に1~2回、各教科で思考力・判断力・表現力を育成する授業を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・フィルターの取付や使用時間など、携帯・スマホの取扱いを家庭できちんと確認し、管理を徹底する。
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」や「家庭学習のすすめ」で紹介された学習の意義や学習方法を参考にして、家庭学習に取り組んでいき、次学年・次単元の学習の準備を行う。